

<研究主題>

すすんで考え、学び合い、思考を深める児童の育成
～国語科の話す・聞く活動を中心として～

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名

単元名 「分かりやすくせつめいしよう」[書く] 「光村図書・下」

教材名 「おもちゃの作り方」

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・説明の順番を考え、言葉のまとまりに気を付けながら文章を書くことができる。
- ・おもちゃの作り方の説明を書くために、必要となる事柄を集めることができる。
- ・話題に沿って友達に感想を伝えたり、質問したりすることができる。

(2) 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す聞く 能力	書く能力	読む 能力	言語についての 知識・理解・技能
①学習したことを生かし、分かりやすくおもちゃの作り方を説明しようとしている。	①友達と話題に沿って感想を伝えたり、質問したりする。 ②説明文について自分や友達の良いところを見つけている。	①説明書を書くために必要な事柄を集めている。 ②内容のまとまりを考え、手順に沿って書いている。 ③写真と対応させながら、文章のつながりを意識して書いている。		①まとまりを意識して、順序を表す言葉を用いている。

3 単元について

(1) 児童の実態

①アンケートによる実態

学級で、国語に関するアンケートを行った。

<アンケート結果>

(33人回答)

		はい	どちらかというとはい	どちらかというといえ	いいえ
1	こくごのがくしゅうは、好きですか？	16	14	2	1
2	はんのともだちに、じぶんのはなしをすることは、好きですか？	18	12	3	0
3	みんなのまえで、はっぴょうすることは好きですか？	18	8	4	3
4	ともだちと、はなしあいながらくしゅうすることは、好きですか？	24	7	2	0
5	きいている人がわかりやすいように、はなしていますか？	19	11	3	0
6	はなしている人を見て、うなずきながらきいていますか？	20	8	4	1
7	はなしている人が、なにを言いたいかをかんがえて、きいていますか？	16	14	3	0

全体の9割の児童が国語の学習に対して、前向きである。また、9割の児童がほとんどの項目で前向きな回答をしている。「班の友達に自分の話をする事」については、「自分の意見を聞いてもらえるから。」「友達と話すことが好きだから。」などの前向きな回答の他に、「どちらかといえばいい」と回答した児童は、「恥ずかしい」という理由があった。学級全体に対してスピーチで自分の話をする機会はあるが、グループでの発表の機会は少ないため、あまりイメージが湧かないようであった。今後の学習活動ではペアや3人組、グループで自分や友達について触れられるような活動も取り入れていきたい。

約9割の児童は「自分の言いたかったことが言えるから。」「自分のことを知ってもらいたいから。」「言えた達成感がある。」などの理由から「みんなの前で発表することは好き」「友達と話し合いながら学習することは好き」と回答しているが、反対に「恥ずかしい」「緊張する」などの理由から、あまり好きではないと回答している児童もいる。これについては、話すこと・聞くことの学習を通して、話し手の話を最後まで聞くことや、自分の話したいことを整理して発表することで自信をもち、今後の学習に対する姿勢につなげていきたい。

「聞いている人が分かりやすいように話す」では「ちょうど良い声の大きさに気を付けている」「話すスピードや目線に気を付けている」という理由から「聞いている人が分かりやすいように話している」と回答している児童が多くいた。一方で、自分の意見を話したい、聞いてもらいたいという児童が多くいるため、その中には言いたいことがまとまらないうちに挙手をし、後から考えるという児童がいることが分かった。ワークシートやノートに、自分の意見を書かせたところ、普段あまり挙手をしない

児童も発表をすることができたため、今後も取り入れていきたい。

「話している人を見てうなずきながら聞いていますか？」と「話している人が、何を言いたいかを考えて聞いていますか？」については、友達のスピーチを聞き、質問が言えるように意識するようになっているため、「少し難しいけど、気を付けて聞くようにしている」という理由もあり、前向きな回答が多くあった。

②日常の実態

「話すこと」

答えが決まっているもので正解に自信があるものについては非常に積極的であり、6割程度の児童が挙手をして発表しようとする。しかし、正解のない「考え」については、もっているが発言しない児童がおり、授業中に挙手をして発言できる児童は、全体の4割程度である。全体の前で発表する時よりも班活動や、ペア学習等の少人数で話す時の方がすすんで話したり、思ったことを発言したりできる。話型に沿って話し合う機会はこれまでに少なかったが、言葉遣いや言い方を生活の中で学習すると、今後に生かそうとする態度が見られる。決められた言い方によって、自分の考えや思ったことを話せる態度を育てていきたい。

「聞くこと」

相手の意見を聞こうとする児童はいるが、すぐに自分の意見を言いたくなり、発言途中にも関わらず挙手をする児童が少なからずいる。自分と違う考えや意見を聞いた時に、「なぜそう考えたのか」を考えようとする児童がいる一方で、全体で話していることを聞き取れずに十分に活動に参加できない児童もいる。話し手の意図を考え、自分との違いを楽しみながら聞くことの活動に取り組めるような態度を育てていきたい。

(2) 単元設定の理由

今後日常生活の中で必要とされる、「説明文を書く」ことへの入り口として、「〇〇の作り方」を書き上げることは、順序だてて文章を書く学習をこれまでやってきているこの時期の児童にとって、とてもよい経験になる。また、自分が作業したことを的確に表す言葉の選び方や手順が良く伝わる文の順序などを考えさせることが重要であるため、「何を」「どうする」という文型を意識できる良い機会になる。また、自分が作ったおもちゃであればおもちゃの作り方の説明をするために必要となる事柄を集めやすいと考えた。

本単元は「書く」単元であり、自分が書いた説明文について友達とワークシートを交換して「読み合う活動」をすることもできるが、今回はタブレットを使うために読み合わせは難しいと考えたため、写真を見せながら説明をし、感想を言ったり質問したりする「話す・聞く」活動とした。

(3) 教材の分析

①教材について

前単元の「しかけカードの作り方」では、書かれた内容を確認しながら実際にしかけカードを作ったため、児童は楽しみながら説明の工夫を読み取ることができた。内容のまとめりごとに作業の手順に沿って書かれており、文章だけでは説明しにくい部分には写真や数値を用いることで詳しくするなど、読み手に分かりやすい工夫がとられている。「しかけカードの作り方」から学習している、相手に分かりやすい文章を順序立てて書く学習を生かしながら進めていく。

本単元「おもちゃの作り方」では教科書に載っている文章に沿って、おもちゃの作り方について構成や順序を表す言葉の使い方、写真、数値を用いた説明の補足について理解することができる。また、内容のまとまりごとに分けたり、順序を表す言葉を使って書いたり、「何を」「どうする」という基本の文型について気を付けながら書くことで、分かりやすい説明文を書く力を身に付けることができる。

児童が、1年生との「おもちゃ大会」に向けて生活科で作るおもちゃを題材とすることで、相手意識と明確な目標をもって学習をすることができると思う。また、書くことの指導では、「書くことがない」と題材の段階でつまづく児童が多いが、本教材は自分が作り上げた作品があるため、文章を書きやすいと考えられる。

4 目指す児童像に迫るための手立て

【低学年分科会の目指す児童像】
話題に沿って、すすんで話したり、聞いたりできる子

_____（下線部）は本時での「話す・聞く」の手立て

(1) 授業展開・形態の工夫

- ・「何を」「どうする」の文型を提示することで、作業の内容を確認し、手順をスムーズに書き進めることができるようにする。
- ・ペア活動にすることで観点に沿って相手に話し、聞けるようにする。（人数を少なくすることで、丁寧に相手の説明内容について質問したり、感想をいったりできる。）
- ・ペアを替えることで自分の力で完成させた説明文について複数名から感想や質問を受け取ることができる。

(2) 評価の工夫

- ・分かりやすい文章について「①順序を表す言葉を使って、作る手順が分かりやすく書いてあるか。」
- 「②写真と文章が合っているか。」を観点として評価をし、お互いに感想や質問を送り合う。

(3) 学習シート（ICT機器タブレット）の工夫

- ・本単元では分かりやすい文の構成を学習する単元であるため、文章の流れに重点を置き、動画でなく静止画を提示することにした。
- ・絵を描かせると、低学年では時間がかかり、また、自分のイメージを伝えるに難しくなると考え、タブレットで作業の様子を撮影することにした。写真をタブレットでスライドさせることで細かいところまで鮮明に見せることができる。
- ・作業中から撮りためた写真から、簡単に表示したい写真を選ぶことができ、説明文に合わせて組み合わせを変えることができる。

5 単元の指導計画（全5時間）

次	時間	各時間の目標	主な学習活動	●指導上の留意点 ◇評価（評価方法）
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 「手作りおもちゃの作り方を分かりやすく書こう」という学習課題を理解し、学習の見通しをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前単元で学習した、分かりやすい説明の仕方を振り返る。 教科書を見ながら、学習の進め方を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●前教材で学習した分かりやすい説明の仕方を振り返ることができるように、掲示を用意しておく。 ◇学習課題を理解し、学習の見通しをもっている。（観察・ワークシート）
2	2	<ul style="list-style-type: none"> 「けん玉の作り方」を読み、分かりやすい説明の仕方がどのように使われているのかを確かめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「けん玉の作り方」を読み、文書の組み立てがどうなっているかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「けん玉の作り方」を読ませ、自分が作ったおもちゃをどのように説明するかというイメージをもたせるようにする。 ◇分かりやすい説明の仕方がどのように使われているのかを確かめている。（発言・ノート）
	3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすい説明の仕方を使いながら、まとめや順序を考えて、おもちゃの作り方を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前書きの書き方を決める。 材料と道具を書く。 作り方の分かりやすい説明の仕方を確かめ、作り方を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●はじめの部分、材料と道具、作り方、遊び方ごとに色を変えた短冊を用意してまとめを意識させる。 ◇分かりやすい説明の仕方を使いながら、おもちゃの作り方をまとまりに分け、順序を考えている。（短冊カード）
3	5 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと説明を読み合い、読んだ感想を伝え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文をもとに、写真を見せながらおもちゃの説明をする。（違うおもちゃの説明を書いた友達と交流する。） 	<ul style="list-style-type: none"> ●話す・聞くの活動をしやすいように、話型を提示しておく。 ◇説明書を読み合い、読んだ感想を伝え合っている。（観察）

6 本時の指導（5／5）

（1）ねらい

- ・友だちと説明文を読み合い、観点にそってよいところを伝え、質問をすることができる。
- ・説明文の書き方や、写真の見せ方について自分や友達の良いところを見付けている。

（2）展開

過程	主な学習活動	●指導上の留意点☆ICT活用	◇評価内容と方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返る。 ・本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">友だちのせつめい文のよいところを見つけ、伝えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ●自分たちの作ったおもちゃについての説明文を、写真と合わせて分かりやすいように書いた事を振り返る。 ●本時でやることを板書にて明確に示す。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の書いた「おもちゃの作り方」を読み返し、文の確認をする。 ・発表の仕方についての説明を聞き、流れを確認する。 ①おもちゃの作り方の説明文を読み合う。（2分） ②説明文を読んでどうだったかを書く。（2分） ③読み合った感想や、内容についての質問をする。 話す人 「かんそうや、しつ間をおねがいます。」 聞く人 「～がよいと思いました。」 「～が分かりやすかったです。」 「～はどうでしたか。（どうですか。）」 話す人・・・答える。（3分） ・隣の席の友達とペアになり、相手の説明文を読み、上手な説明文の観点をもとに、感想を伝え合ったり、質問をしたりする。 ・自分の説明文について、良いところを言ってもらったり、質問を受けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●友達に聞いてもらうために、読み直して表現や書き方を直すという意識をもたせる。 ☆ペア活動に備えて説明に使う写真を表示しておく。 ●ワークシートに提示してある観点「①順序を表す言葉を使って、作る手順が分かりやすく書いてあるか。」「②写真と文章が合っているか。」をお互いに見合うように指導する。 ●どのような質問をするとよいか、質問例を確認する。（質問を確認することで、話す・聞くの活動を速やかに行えるようにする。） 質問例 ・「一番難しかったところはどこですか？」 ・「なぜそのおもちゃを作ろうと思ったのですか？」 ・「特に工夫したところはどこですか？」 ・「（速く走る・高く飛ぶ・遠くまで走る）ようになるポイントは何ですか？」 ☆「まず」「つぎに」「それから」に合わせて写真を見せていく。 ●1ターン終わった後、質問例で提示したもの以外の質問をしているペアをモデルとして紹介する。 	◇おもちゃの作り方の説明を読み合い、観点に沿ってよいところを伝え、質問している。話す・聞く（観察・ワークシート）
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本時のめあてについて振り返りをする。 ●相手にもらった感想で嬉しかったことや、友達の説明文を読んで良いと思った部分を発表する。 	◇説明文の書き方や、写真の見せ方について自分や友達の良いところを見付けている。話す・聞く（発表・ワークシート）

おもちゃ作り

友だちのせつめい文のよいところを見つめよう。

①話す人

おもちゃの作り方のせつめい文をはっぴようする。(二分)

②聞く人

話を聞いてどうだったかを書く。(二分)

③話す人

「かんそうや、しつ問をおねがいします。」

聞く人

「ゝがよいと思いました。」

「ゝが分かりやすかったです。」

「ゝはどうでしたか。(どうですか。)」

話す人・・・答える。

(四分)

おわったら合図があるまで、次のはっぴようのしたくをして、まつ。

しつ問れい

- ・「一番むずかしかったところはどこですか？」
- ・「なぜそのおもちゃを作ろうと思ったのですか？」
- ・「とくに工夫したところはどこですか？」
- ・「(はやく走る・高くとぶ・遠くまで走る) ようになるポイントは何ですか？」